

## 平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立諸富北小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

### ■ 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕
<ul style="list-style-type: none"><li>身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容</li><li>様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容</li></ul>

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

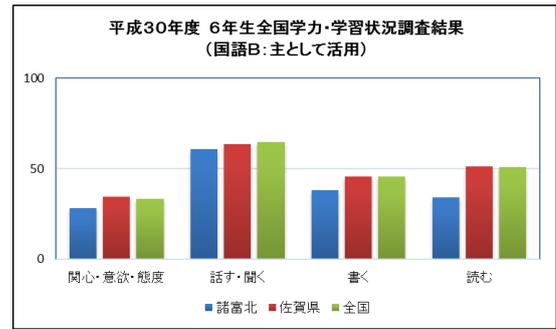
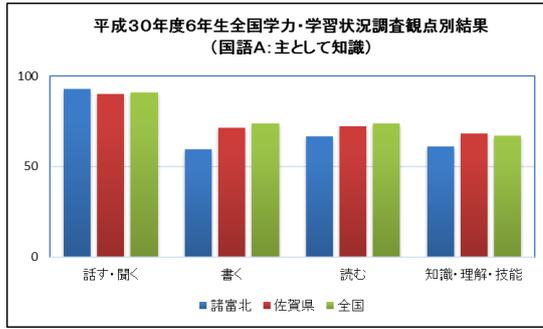
### ■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

## ■調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果



基礎的な知識を問うA調査は、話す・聞く領域で全国・県平均を上回り、伸びが見られた。一方、読む・書く領域はA調査も、活用力を問うB調査も、全国・県平均を下回った。記述式の問題の無回答率が高かった。

#### (2) 成果と課題

##### 話す・聞く

- ・目的に応じて、自分が伝えたいことを筋道立てて話す問題は、正答率が高かった。しかし、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題が見られた。

##### 書く

- ・想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成を考える問題では、無回答率が高く、正答率も県・全国平均を大きく下回った。物語の構成を考えて物語が書けるようになるには、読むことの指導と関連を図りながら書く力をつける必要がある。

##### 読む

- ・登場人物の心情について情景描写を基に考えたり、自分の考えを明確にしながら読んだりすることに課題がみられた。いろいろな読み物に触れたり、複数の本や文章を読み比べたりする学習活動を取り入れていく必要がある。

##### 言語事項

- ・主語と述語の関係に気をつけて文章を書いたり、日常生活で使われている慣用句の意味を理解して使ったり、相手や場面に応じて敬語を使ったりする問題は誤答が多かった。また、漢字を文の中で正しく使う問題は、無回答率が高かった。既習の漢字や敬語などは、日常生活で活用できるよう指導の工夫を行う必要がある。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

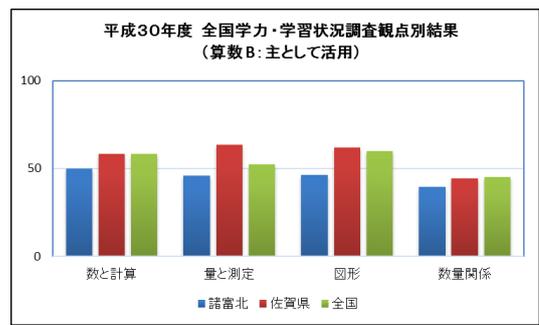
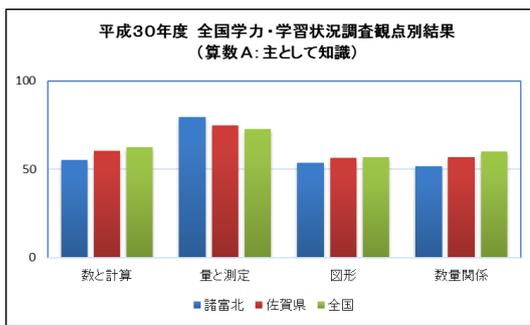
- 全ての観点を関連づけながら総合的に伸ばしていくよう指導方法を工夫していきます。
- 授業では、効果的な話し合い活動を行っていきます。友達の考えと自分の考えとを比較しながら聞き、根拠のある理由を述べたり、考えをまとめたりする指導を充実させ、言語能力を育成します。
- 朝の音読タイムや国語スキルタイムでは、ことわざ・慣用句に触れたり、敬語を使って話したりする活動を取り入れていきます。

##### 【ご家庭では】

- まずは音読が基本です。音読を毎日続けましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 親子で読書を楽しんだり、新聞を読んで感想を伝え合ったりするなど、読むことや話すことが楽しいと感じる体験を増やしましょう。相手の話に共感したり、根拠を尋ねたりして、話題を広げることで語彙力も高まります。

## 2 算数

### (1) 結果



A調査は、量と測定の領域で全国・県平均を上回ったが、B調査は、どの領域でも全国・県平均を下回った。特に、量と測定の領域においては、身につけた基礎基本の力を活用できないことに課題がある。

### (2) 成果と課題

#### 数と計算

・  $5 \square 3 > 5 6 2$  の  $\square$  に当てはまる数を答える問題のように、答えが1つとは限らなかったり、どの位の数字に着目するかを考えて判断したりする問題では、全国・県平均を下回った。数学的な思考力・判断力の育成が必要である。また、問題を解決する過程で、数量の関係を図や数直線などに表して考えることにも課題が見られた。

#### 量と測定

・ 単位量当たりの大きさを求める問題は、全校・県平均を上回った。また、角の大きさを求める問題もよく理解できていた。調査Bの設問では、折り紙100枚あれば、決められた長さの輪かざりができる理由を記述する問題で、全国・県平均を大きく下回った。示された数量を関連付けて考えたり、根拠を明確にして説明したりすることに課題がある。

#### 図形

・ 円周率の意味について理解できていたが、直径の長さと同周の長さの関係について考える問題では正答率が低かった。図形においても、筋道を立てて考えたり、説明したりする問題に弱い傾向が見られる。

#### 数量関係

・ 割合は全国平均を大きく下回った。問題場面から規準量と比較量を正しく捉えて割合を求めることに課題が見られた。メモの情報と棒グラフを組み合わせたグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈して記述する問題では、無回答率がたいへん高く、言葉や数字を使って説明する力をつけさせる必要がある。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

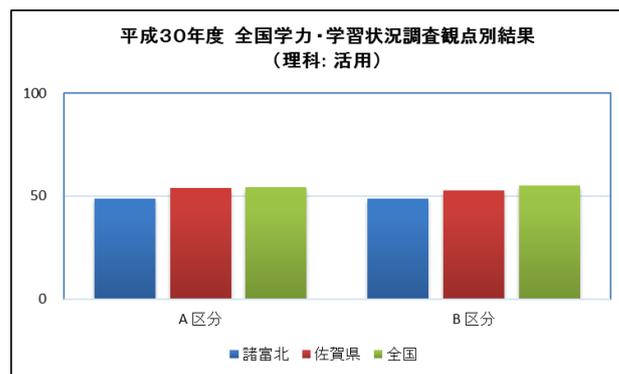
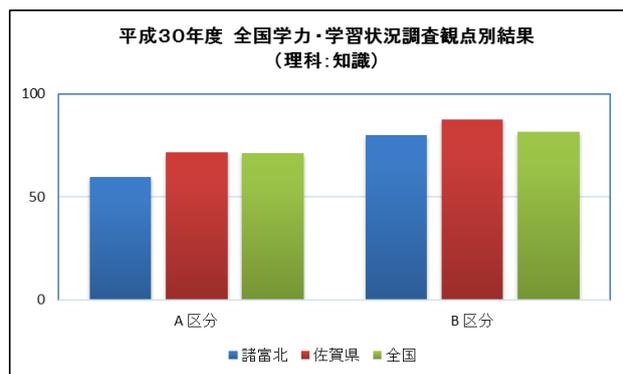
- 「すすくテスト」を活用し、単元ごとの確実な習熟をめざします。
- 授業では、式や言葉を使って書いた考えやわけをもとにして、話し合い活動で、思考を広げたり深めたりするなど、言語活動を多く取り入れた学習を工夫します。
- T T 少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

#### 【ご家庭では】

- 今、どんな学習をしているか、宿題のプリントやノートに目を通しましょう。励ましや称賛の言葉をかけてもらうことで、子どもたちはやる気が増します。
- 日常生活において、算数を使う場面（割り引かれた品物の値段をもとめたり、速さを考えたりするなど）に出会わせましょう。習ったことが使えると、便利だな、おもしろいなという思いを経験し、算数好きになります。

### 3 理科

#### (1) 結果



基礎的な知識を問う問題も活用力を問う問題も、A区分・B区分ともに、全国・県平均を下回った。他の教科と同様に、記述式で説明することや、活用力（学んだことを基にしたものづくりへの適用力など）に課題が見られた。

#### (2) 成果と課題

##### A区分（物質・エネルギー）

- ・乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを、プロペラを利用した扇風機に適用して考える問題は正答率が低かった。
- ・食塩水を蒸発させる実験を行い、実験の結果からいえることをまとめる問題では、実験結果から言えることだけに言及した内容を記述することができていなかった。

##### B区分（生命・地球）

- ・野鳥のひなの様子を観察する問題は、正答率が高かった。安全に気をつけて、生き物を愛護しようとする態度が育っている結果であると考えられる。
- ・腕の骨や筋肉のつくりと働きについて、人の腕が曲がる仕組みを模型に適用することができていなかった。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- 理科の学習で問題解決を通して獲得した知識を、日常生活と関係づけて考えるようにします。
- 実験や観察を充実させ、環境の整備を推進します。
- 器具を使用する目的や操作の意味をとらえさせ、器具の適切な操作方法を身に付けさせます。
- 授業では、「変える条件」と「変えない条件」に分けるなど、条件を整理して実験を計画できるようにします。また、実験結果のデータをまとめた表やグラフから傾向を捉えて考察し、根拠や理由を示しながら自分の考えを記述できるようにします。

##### 【ご家庭では】

- 子どもが理科的なことに興味を持ったときに、それにつきあったり、理解を示したりする大人や家族がいることは、理科好きな子に育つことにつながります。お子さんが科学や自然について疑問を持ち、その疑問について質問したり調べたりするときには、ぜひお子さんといっしょに考えたり、調べたりしてください。

## 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

### (1) 生活の様子

どの項目もよい結果である。  
特に朝食については、今後も維持していきたい。

平日の読書時間が10分未満の児童が35%いるので、家庭での読書習慣を呼びかける必要がある。

生活の様子について			
調査項目	本校%	県平均%	全国平均%
朝食を毎日食べている。	100	94.4	94.5
毎日同じくらいの時刻に寝ている。	89.4	77.1	77.0
毎日同じくらいの時刻に起きている。	96.5	95.7	88.8
平日読書を30分以上している。	62.6	40.4	41.1
平日読書を全くしない～10分未満。	35.0	32.9	33.6
新聞を読んでいる。	22.3	19.5	19.9
テレビやインターネットで、ニュースを見る。	86.0	83.7	86.2
家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話す。	71.9	77.4	80.5

### (2) 家庭学習の様子

家庭学習も定着しているが、予習・復習については個々の意識に差があり、このことが学習時間にも表れている。家庭学習の質と内容をともに上げていく必要がある。

家庭学習の様子について			
調査項目	本校%	県平均%	全国平均%
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	100	97.3	97.1
家で、学校の授業の予習・復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	62.6	68.4	62.6
平日2時間以上勉強している。	40.4	24.9	29.3
平日0～1時間勉強している。	28.1	36.3	33.7

### (3) 地域との関わり

地域の方々のご支援・ご協力で、地域への関心があり、地域の活動に参加しようとする意識も高い。

地域・社会との関わりについて			
調査項目	本校%	県平均%	全国平均%
地域や社会でおこっている問題や出来事に関心がある。	80.7	63.8	63.8
地域社会などで、ボランティア活動に参加したことがある。	52.6	45.4	36.1
地域の大人(学校や習い事は除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある。	56.1	43.2	41.6
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。	68.4	50.1	49.9

### (4) 改善に向けての取り組み

#### 【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出します。自主学习(自学)も学年に応じて取り組んでいます。お手本になる自学ノートを掲示しており、定着しつつあります。
- 始業前の朝の読書タイム、「ノーテレビ・ノーゲームデー」に行っている親子読書、読書ボランティアの方による読み聞かせなど、読書の機会を増やしていきます。

#### 【ご家庭では】

- 「早寝・早起き・朝ごはん」は、「明るく元気な諸富っ子の育成 家庭教育10か条」でも取り上げている項目です。規則正しい生活が子どもたちの心と身体を育みます。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや自主学习の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましましょう。
- テレビやビデオ、ゲームの時間はご家庭で適度な時間を決めましょう。
- 地域の行事やボランティア活動などに進んで参加しましょう。様々な体験活動を通して、子どもたちの豊かな心が育っていきます。